（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和　６年度　学校自己評価システムシート　（県立三郷北高等学校）

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を３本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校

重点目標	1　学習習慣の確立と授業改善による学力向上を図り、進路希望を実現させる。 2　集団活動をとおして共生社会の実現を目指し、規範意識を持った社会に信頼される人材を育成する。 3　インクルーシブ教育を充実させ、分校とともに地域に開かれた学校づくりをさらに推進する。

達成度	
A	ほぼ達成（８割以上）
B	概ね達成（６割以上）
C	変化の兆し（４割以上）
D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
　　生徒　　名
　　事務局（教職員）　　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					５年度評価（１月３１日現在）			実施日　令和７年２月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 授業改善の取組により、生徒の学習意識は高まっているが、家庭学習時間に変化は見られない。 進路について高い関心があるが、一方で現実への対応ができていない。 ICT機器の活用は主にプロジェクターを使用した授業であり、Google Workspace等のソフトを活用に至っていない。 【課題】 第一志望を譲らない進路指導をとおして、学習習慣を確立し自己管理能力を育成する。 Google Workspace等を活用し、校務のスリム化・効率化を図る。 校内BYODを有効的に活用し、タブレット端末を活用した授業を実践する。	○進学補習の開講、参加者数が増加したか。欠点保有生徒が減少した結果、それに伴う家庭学習時間が増加したか。	①進学補習を長期休業中及び平常日にも行い、第一志望を譲らない指導を計画的に行なう。 ②定期テスト実施前に学年、教科と連携して指名補習を行い、欠点を減少させる（通年） ③模試を効果的に行い、大学・短大希望の生徒の意識を醸成する。	①大学短大進学希望の生徒に必要な模試、学習を支援できたか ①進学補習の受講生徒が5%程度増加したか。（昨年度比） ②年間を通じて欠点保有者が減少したか。 ②ベネッセの回答において家庭学習時間が5%程度増加したか。 ③模試の受検者数。				
		○ICT等を活用して大学進学を見通した授業等を実施し、教科ごとに研究協議できたか。	①通年において中堅大学進学を意識した授業等を実施し、教科で研究協議をする。 ②スタディサプリの課題配信を組織的に行い、外部コンテンツを活用した授業改善をする。	①教科ごとに研究協議できたか。 ②大型連休や長期休業期間等にスタディサプリの課題を配信できたか。 ②スタデジサプリの動画配信時間が増加したか（昨年度比）				
		○タブレット端末等を活用した授業を行うなど、校務がスリム化・効率化したか。	①生徒の個人端末をBYODに接続させ、授業内のアンケートを行う。 ②教員向け研修会を実施し、教員のスキルを向上させる。	①生徒全員がBYODに接続できたか。 ②授業内で端末を活用したアンケートや確認テスト等を行い、校務の軽減につなげたか。 ③教員向け研修会を開催できたか。				
2	【現状】 委員会活動は以前の状態に近づいてきている。全体的に生徒は落ち着いて学校生活を送っているが、遅刻者数及び遅刻回数は減少しない。 相手のことを考えられない行動がみられる。また、自転車マナーや校外での行動についての苦情がある。 【課題】 遅刻者数の減少に向けて教職員一丸となって対策に取り組む。 生徒の自己決定力を育てる委員会運営を行う。規範意識を醸成し、他者への思いやりを持ち、自己管理能力を育成する。	○遅刻者数が減少したか。校外での行動や自転車マナーへの苦情が減少したか。	①遅刻者への事後指導を学校全体で組織的に実施する。 ②交通安全講習（自転車運転マナー）を全校生徒に行い、交通マナー指導を行うとともにヘルメットの着用を促す。	①遅刻件数年間1000件以下となったか。 ①朝の立証指導を組織的に行えたか。 ②地域警察と連携し、自転車マナー向上や交通安全に関する情報を発信できたか。（前年比） ②年度当初に交通安全指導を実施したか。				
		○自ら考え、自己決定できるように助言し、生徒の規範意識を醸成し自己管理能力を育成できたか。	①生徒が考えて自らの力で運営する専門委員会を設定し、しの実祭や感恩祭を成功させる。 ②全校集会、学年集会やHR活動を通じて、規範意識や学校への誇りを高める指導を行う。	①委員会活動では思考力を刺激する内容を設定することで、行事等を成功させることができたか。 ②全校集会等（年8回）、学年集会（年4回）及びHRでの講演や講話を実施できたか。				
3	【現状】 生徒が活躍する説明会を通して生徒募集を行い、志願倍率が1.06倍であった。三郷、八潮、吉川3市内からの入学者数は80%以上を確保した。 国際交流活動を数年ぶりに実施できた。 分校開校による校内の調整を進めた。 学校行事を中心に保護者が来校できる機会を可能な限り設定した。 【課題】 ホームページでの情報拡散・生徒の地域活動を活用した生徒募集を行る。 派遣を中心に国際交流活動を継続する。 分校と協働し学校行事を実施し、地域に開かれた学校づくりを行い、保護者の満足度を向上させる。	○本校の魅力を中学生・保護者に伝えるため、生徒の活躍を積極的に情報発信することで志願者数を増やすことができたか。	①国際交流事業など本校の魅力をPRし、学校説明会や地区の説明会等に参加する。 ②生徒の活躍が見られる学校説明会を行う。 ③学校ホームページを積極的かつ組織的に更新し、魅力を発信する。 ④公開授業について近隣の中学校や塾等に働きかけ、本校の様子を知ってもらう。	①国際交流活動を中学生と保護者にアピールできたか。 ②生徒が活躍する広報活動を実施し、年5回の学校説明会が定員を満たしたか。 ③学校ホームページのトップページの更新回数及びカウンター数。 ④公開授業における中学生等の参加者数及びアンケートでの評価。				
		○PTA、後援会等との連携を密にし、支援をもらいながら分校と共同実施する学校行事等を実施できたか。	①PTA、後援会と連携を図る。 ②分校と本校の職員との交流を通して共同実施する学校行事の準備等を行い、生徒同士の交流につなげる。 ②後援会と連携して、生徒の活動を活性化する事業を計画、実施する。	①行事ごとにPTA、後援会と密に連携し、保護者の来校機会を設定できたか。 ②分校職員と本校職員との共同研修会を通じて交流を深めたか。 ②分校生徒と本校生徒が交流し、学校行事等を実施できたか。 ③生徒の活動を活性化するため、外部施設使用について後援会による支援を実施できたか。				